

船舶電気関係記事年表(昭和20年代)

(雑誌「船舶」、「船の科学」より)

西暦(和暦)	電気関係 論文・解説記事など	著者	備考
1949-3「船の科学」 VOL.2 NO.3 (昭和24年3月)	・音響測深機の現状と能力向上について(1)	実吉純一	周波数 14~14.5KC 測深 0~1800m
1949-4「船の科学」 VOL.2 NO.4 (昭和24年4月)	・音響測深機の現状と能力向上について(2)	実吉純一	
1949-6「船の科学」 VOL.2 NO.6 (昭和24年6月)	・船用ウインチの交流駆動について	池村 清 (海運総局船舶局 造機課)	
1949-7「船の科学」 VOL.2 NO.7 (昭和24年7月)	・[海外技術資料] 最新航海機械	編集部	ジャイロ・コンパス、レーダ、ロラン などの紹介
1949-9「船の科学」 VOL.2 NO.9 (昭和24年9月)	・アメリカ船の電気艦装(NO.1) 船内通信装置	三枝守英 (石川島重工)	警報ベル、LO低下警報 主機回転速度計
1949-10「船の科学」 VOL.2 NO.10 (昭和24年10月)	・アメリカ船の電気艦装(NO.2) 電話装置と船内通信用配電盤	三枝守英 (石川島重工)	共電式電話、電気式テレグラフ 舵角計、通信用配電盤、IC接続箱
1949-11「船の科学」 VOL.2 NO.11 (昭和24年11月)	・アメリカ船の電気艦装(NO.3) IC工事 (IC とは船内通信のこと、Interia Communication)	三枝守英 (石川島重工)	接続関係：準備工事、端子、表示 接続箱など
1949-12「船の科学」 VOL.2 NO.12 (昭和24年12月)	・アメリカ船の電気艦装(NO.4) 照明装置	三枝守英 (石川島重工)	給電回路、分岐回路
1950-1「船の科学」 VOL.3 NO.1 (昭和25年1月)	・船用電動揚貨機 ・富士電機 電動揚貨機 ・東芝 電動揚貨機 ・三菱電機 電動揚貨機	齊藤徳介 山川重一 毎熊秀雄	
1950-2「船の科学」 VOL.3 NO.2 (昭和25年2月)	・船の電気設備 (グラビヤ写真)  ・アメリカ船の電気艦装(NO. 5) 続 照明装置	メーカ各社  三枝守英 (石川島重工)	無電池式電話、操舵装置、配電盤、 無線受信機、送信機、方探、 火災報知機、ジャイロ、テレグラフ 舵角指示器 などの写真
1950-5「船の科学」 VOL.3 NO.5 (昭和25年5月)	・船舶用直流3線式配電盤について ――協立丸の配電盤――	松平 享 (明電舎)	
1950-6「船の科学」 VOL.3 NO.6 (昭和25年6月)	・RADAR (グラビヤ写真)  ・船用ウインチに対する考察	大岡 茂  田中 豊 (川崎汽船)	
1950-9「船の科学」 VOL.3 NO.9 (昭和25年9月)	・レーダーの理論	友納典人 (国鉄)	
1951-2「船の科学」 VOL.4 NO.2 (昭和26年2月)	・羅針儀を調節する技術者 (グラビヤ写真)	USIS 提供	磁気コンパスの調整風景
1951-2「船舶」 VOL.24 NO.2 (昭和26年2月)	・輸出船サクラ号の電気設備について (Panama, Nortuna Shipping Co.)	徳永 勇 (東日本重工 横浜造船所)	M.Gen.250Kw 225VDC *3 A.Gen. 50Kw 225VDC *1 S.24-10-16 竣工
1951-3「船の科学」 VOL.4 NO.3 (昭和26年3月)	・ローランの解説	水品正雄 (海上保安庁)	
1951-5「船の科学」 VOL.4 NO.5 (昭和26年5月)	・レーダー使用状況一覧表	編集部	この時代は全て外国製(スベリー、 RCA、ケルビン etc)
1951-8「船舶」 VOL.24 NO.8 (昭和26年8月)	・音響探鯨機  ・船の安全を期するコンパスの装備法	宮島次郎 鶴ヶ谷武雄 (日本電気)	磁気コンパスの装備法解説
1951-9「船の科学」 VOL.4 NO.9 (昭和26年9月)	・コッサー・マリン・レーダー  ・船舶無線通信について	大沢秀一 (コーンズ) 菊地 弥 (茨城大学)	製品紹介

1951-11「船舶」 VOL.24 NO.11 (昭和24年11月)	・東洋電機の交流電動ウインチ	小穴正一郎 (東洋電機技術部)	
	・無電池式電話機と救命艇用無線機	小村小一 運輸技術研究所	
	・日令丸のスペリー・ローラン・レシーバ(写真)		日令丸:日産汽船
1952-1「船舶」 VOL.25 NO.1 (昭和27年1月)	・最近の航海計器展望 Large Navigation	波多野 浩	Radar,Loran, Gyro Compass, Auto Pilot, Echo sounderなど
1952-1「船の科学」 VOL.5 NO.1 (昭和27年1月)	・北辰式 TWO-UNIT GYRO PILOT	小林 実 (北辰精密工業)	製品紹介
1952-4「船舶」 VOL.25 NO.4 (昭和27年4月)	・スペリー式マグネティック・コンパス・パイロット	波多野 浩	
1952-4「船の科学」 VOL.5 NO.4 (昭和27年4月)	・日本無線で試作された JRCマリン・レーダ ・TKS スペリー・ローラン	日本無線 東京計器	周波数 9375MC 尖頭出力 30KW
1952-6「船舶」 VOL.25 NO.6 (昭和27年6月)	・中距離航法としてのデッカシステムについて	庄司和民 (商船大学)	
1952-6「船の科学」 VOL.5 NO.6 (昭和27年6月)	・船舶用緊急自動受信機	東芝	製品紹介
	・Sperry 社の新型自動操舵装置 New Rate Pilot	東京計器	製品紹介
1952-7「船舶」 VOL.25 NO.7 (昭和27年7月)	・30糎電球式信号探照燈	勝倉喜一郎 (株)湘南工作所	
1952-7「船の科学」 VOL.5 NO.7 (昭和27年7月)	・風向風速計	光進電気	製品紹介
1952-9「船舶」 VOL.25 NO.9 (昭和27年9月)	・磁気羅針儀の装備に関して	佐藤健一郎 小黒英男 (運輸技術研究所)	
1952-11「船の科学」 VOL.5 NO.11 (昭和27年11月)	・エレクトロラック 電気冷蔵庫について	藤井太一 筒井敏弘 (ガゼリウス商会)	製品紹介
1952-12「船の科学」 VOL.5 NO.12 (昭和27年12月)	・最近の航海計器	井関 貢 (商船大学)	
1953-7「船舶」 VOL.26 NO.7 (昭和28年7月)	・スペリー磁気コンパス・パイロット	波多野 浩	小型船のオートパイロットに適用されるものとして紹介
1953-7「船の科学」 VOL.6 NO.7 (昭和28年7月)	・船舶用電気検塩計	理化電気工業	製品紹介
1953-8「船舶」 VOL.26 NO.8 (昭和28年8月)	[特集] 最近の航海計器 ・日本無線 NMD401型レーダと NMD302型ローラン受信機について ・スペリー式船用レーダについて ・TKS 製スペリー式ローラン受信機 ・北辰式ジャイロ・パイロット ・スペリーF.I 型ジャイロ・コンパス ・新型音響測深機について ・スペリー・レイト・パイロット	高橋修一  落合徳臣 青山峰次 小林 実 納富次郎 宮島次郎(NEC) 山田光雄	
1953-9「船の科学」 VOL.6 NO.9 (昭和28年9月)	・東洋電機のコンプレックス電動機による船用交流電動揚貨機について ・富士船用交流電動揚貨機  ・三菱電機の交流電動揚貨機	小穴正一郎 (東洋電気) 平本順三郎 (富士電機) 進藤貞和 (三菱電機)	製品紹介
1953-10「船の科学」 VOL.6 NO.10 (昭和28年10月)	・一万重量屯貨物船の交流化(一)	前田道生 (三菱造船 長崎)	
1953-11「船の科学」 VOL.6 NO.11 (昭和28年11月)	・TDKテープ文字電送機	川島信太郎 (東方電機)	

1953-12「船舶」 VOL.26 NO.12 (昭和28年12月)	・昼間信号灯の現状	木村小一 (運輸技術研究所)	
1953-12「船の科学」 VOL.6 NO.12 (昭和28年12月)	・船舶と電気防蝕	花岡政明 (日本防蝕工業)	
1954-2「船舶」 VOL.27 NO.2 (昭和29年2月)	・NK規則による船内の回路保護装置について	刀祢館正巳 (日本海事協会)	
1954-5「船舶」 VOL.27 NO.5 (昭和29年5月)	[船用電気設備特集] ・船舶は直流か交流か  ・最近の電動揚貨機と船内電源容量について  ・ツェーブラート式空冷ジャイロ・コンパス  ・船用無電池式電話機とその進歩  ・船舶電気の合理化について	徳永 勇 (東日本重工 横浜) 太田勝治郎 (富士電機) 小林 実 (北辰電機) 高屋長武 (タカヤ電気) 三枝守英 (石川島重工)	
1954-5「船の科学」 VOL.7 NO.5 (昭和29年5月)	・新発明品 ロディケーターについて  ・伊藤式遠隔操縦装置	筒井敏弘 (ガデリウス) 伊藤鉄工所	ロディケーターとは積付計算機  佐世保造船所建造タンカーに装備 した主機リモコン
1954-6「船の科学」 VOL.7 NO.6 (昭和29年6月)	・マリン・レーダーについて  ・協立電波のマリン・レーダー	松本政則 (協立電波精器) 協立電波精器	
1954-7「船の科学」 VOL.7 NO.7 (昭和29年7月)	・油槽船の電気防蝕法	乙部 亨 (日本防蝕工業)	
1954-8「船の科学」 VOL.7 NO.8 (昭和29年8月)	・水中音波探知機 SEA SCANAR	福居淳行 (山武計器)	
1954-9「船舶」 VOL.27 NO.9 (昭和29年9月)	・船用ヒューズについて(上)	刀祢館正巳 (日本海事協会)	
1954-10「船舶」 VOL.27 NO.10 (昭和29年10月)	・船用ヒューズについて(下)	刀祢館正巳 (日本海事協会)	
1954-10「船の科学」 VOL.7 NO.10 (昭和29年10月)	・救命艇用携帯無線電信装置紹介	安立電波、協立電波 日本無線、RCA 他 4社	
1954-11「船舶」 VOL.27 NO.11 (昭和29年11月)	・浦賀式遠隔操縦装置について	浦賀造船所 設計部	米海軍向主機リモコンの試作結果

**[メモ]**

1. 戦後、米軍の軍事技術が一般に開放されたことにより、それらの技術が商船にも利用され始めた。それを紹介する記事が多く見られる。レーダーやロラン、音響測深機などに関する記事がそれに該当するが、当時の最新の航海機器であった。
2. 「船用ウインチの交流化」など、交流化への動きが見られた。
3. アメリカ船の電気艙装についての紹介記事あり、興味深い。
4. Gyro Pilot など航海自動化の動きが既に見られる。
5. 主機リモコンの試作の記事がある。既に主機操縦の自動化の動きがみられる。